

(3) 梅毒の発生状況(図7及び8参照)

平成23年以降増加のみられた全国の梅毒報告数について、令和3年以降顕著に増加がみられている。これを踏まえ、鳥取県における過去10年の年別報告数の推移、年齢別報告数についてまとめた。

ア 年別報告数の推移

全国の梅毒報告数は令和3年以降急増しており、令和6年の報告数は14,829人であった。鳥取県においては、令和2年までは増加していたが、令和3年、4年は届出数が減少し、令和5年から再び増加し、令和6年は41人であった。

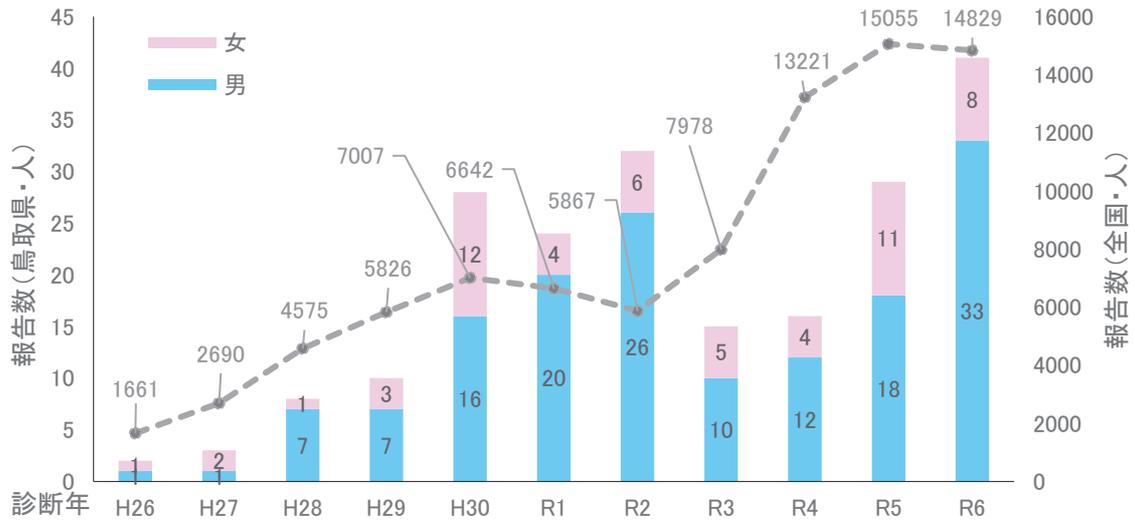


図7 全国及び鳥取県内の梅毒年別報告数の推移

イ 年齢別報告数(令和6年)

令和6年の鳥取県内の年齢別では、男性は20代から80代までの報告があり、40代が10人と最も多く、次いで30代が8人、50代が7人、20代が5人の順であった。女性では20代から90代までの報告があった。

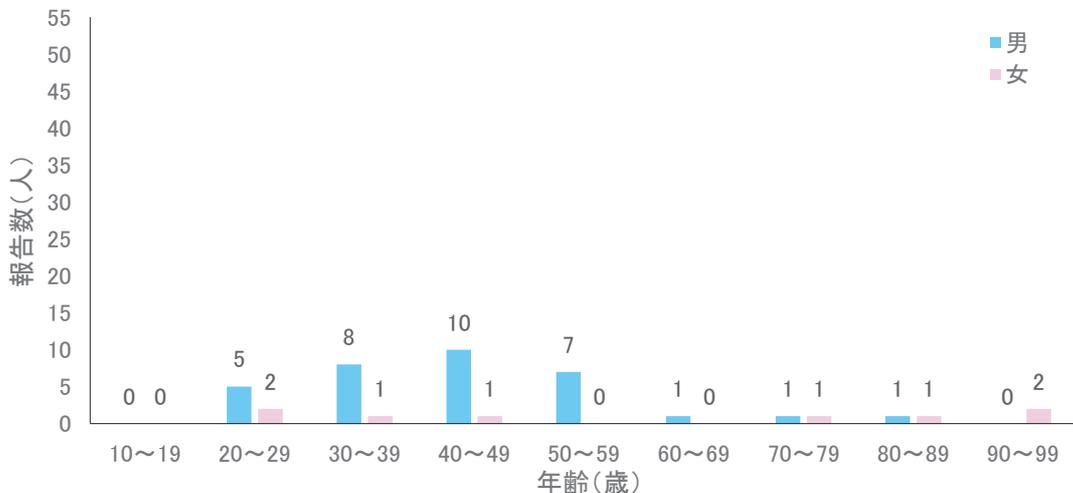


図8 令和6年の鳥取県内の年齢別・性別報告数